

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 松重 充浩

研究課題		日本大学文理学部所蔵未整理「満蒙」関係図像記録のデータベース構築と学術的位置付けに関する研究
報 告 の 概 要	研究目的 および 研究概要	<p>[研究の目的] 日本大学文理学部の図書館・資料館には、従前の外部研究資金や寄贈により「満蒙」関係記録が多数所蔵されているが、その大半が未整理の状態にある。本研究では、その未整理記録の中から、特に図像記録の整理と学術的位置付けに関する分析・考察を行い、本学における歴史研究の資料環境整備とその対外的発信力の向上を目的とするものである。</p> <p>[概要] 本研究では、本学所蔵未整理「満蒙」関係記録の中から、『亜東』（大連刊、定期刊行物）をとりあげ、その記事目録と図像部分のデジタル化とデータの Excel 入力を通じてデータベース構築を行い、その記録の歴史的 position 付けの分析と考察をおこなった。</p>
	研究の 結果	<p>本研究の成果として、以下の2点をあげることができる。</p> <p>1. 文理学部所蔵『亜東』の掲載記事・図像のデータベース構築                  (1) 『亜東』掲載の全ての記事(1429件)の諸情報(巻号、作者、タイトル、頁数)を Excel ソフトに入力しデータベースの構築をおこなった。                  (2) 同時に掲載図像に関してもデジタルを行ったうえで、掲載箇所のデータ(巻号、作者、タイトル、頁数)にリンクさせる形で Excel に入力。</p> <p>2. 掲載記事と図像の内容分析を通じて、1920年代末から30年度初頭の大連在住日本人が自らの中国認識を現地の如何なる対象から構築し、それを写真等の図像に如何に反映させ、同時にその図像が日本人の中国認識を如何に規定していったの相互連関的關係を確認することができた。</p>
	研究の 考察・ 反省	<p>本研究により、20世紀前半中国東北地域在住日本人社会における写真をはじめとする図像記録としての重要性をつとに認識されながらも、詳細な書誌データ整理が遅れたいた『亜東』の利用環境整備を大きく前進させ、当該研究領域の資料環境整備につながったと考えられる。</p> <p>また、『亜東』掲載記事・図像の分析を通じて、当該期の現地日本人が現地環境それ自体をそのまま看取するのではなく、予め想定した認識範囲からのみ理解し、それ以外の事象については「理解不能」の&lt;他者&gt;として排除・攻撃対象としていたことが確認でき、日中韓対立の背景的要因の一端の解明につながったと考えられる。</p> <p>しかし、時間的制約と松重の想定外の校務多忙もあり、他の文理学部所蔵の「満蒙」関係記録群をふまえた分析を行うことができず、本学の資料発信能力の全面的開花と当該期現地社会の全体的分析は未着手に終わった。後日を期すこととしたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所		
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		<p>[研究成果物] 「日本大学文理学部所蔵『亜東』記事目録」(加藤直人編『東アジアにおける政治・経済・文化の接触と相互変容の諸相：科研(B)(加藤直人研究代表) 国際学術交流記録』[「清代「内陸アジア交易ネットワーク」の形成・展開と文化変容における歴史的特徴の解明」研究会、2023年4月24日刊行予定、所収、85-113頁)</p>